

会議名	長浜市指定管理者選定委員会第1委員会 (令和3年度第5回会議)
日時	令和3年10月20日(水)
審査対象	田根まちづくりセンター

審査結果概要

- (1) 申請団体(田根地区・地域づくり協議会)による説明、プレゼンテーション
- (2) 質疑応答【以下質疑応答のとおり】
- (3) 採点、集計
1000点満点中：824点(100点満点中：82.40点)
- (4) 審査【以下審査のとおり】
指定管理者候補として適当と判断する者
所在地 長浜市高畑町316番地1
名称 田根地区・地域づくり協議会
代表者 会長 中居 康幸
選定にあたっての条件 特になし

質疑応答

- (委員) 団体の過去三年の財務状況にバラつきがあるのはなぜか。
「つながり支援センター」を基本方針としているが、全世代交流の事業は考えているのか。
- (申請者) 財務状況について、平成30年度は収入が230万円で、その内市に対する提案事業が60万円、半年間の地域活性化プランナー設置費が75万円で、合わせて135万円単年の支出があった。令和元年度は、空き家ネットワーク事業を単年で実施した。令和2年度は地域活性化センター助成事業を204万円で取り組んだことから特に大きくなっている。
収入は連合自治会からの助成金が40万円、市からの活動交付金が46万円で、その他あわせて100万円程度が通常の事業規模となっている。
全世帯を対象とした事業は、学生との交流が続いている。健康推進委員が事業にかかわっていただいた。積極的にはできていないので計画の中にもある放課後児童クラブを実施する中で、指導員や支援員、先生、OBを対象に高齢者、保護者、子供の交流のきっかけづくりを今後取り組んでいきたい。3世代交流事業として、ニューイングフェスタやふれあい広場事業も取り組んでいて、世代間交流を進めている。
- (委員) わくわくする事業計画であると感じた。学生が来られているの

は知っているが、ただ交流をしているのか、研究されるために来ているのか。研究者が来る目的はどうか。有益であったことは何か。

(申請者) 建築系の学生で、空き家の活用方法の提案や田根未来塾の講師をお願いしたり、デイサービスのさくら番場も空き家で高齢者施設を作ってはどうかという学生の提案からできたものである。福祉の事業所から、サテライト事業所でぜひやりたいという話があつて、空き家の改修は4,000万円かかるため、空き地を寄付いただいて新築された。その設計を慶応大学の学生が行った。形としてできたものはさくら番場が一番大きい。空き家活用のサマーセミナーで虎姫高校の学生と交流いただいている。学生は学生なりに地域の課題を提案して研究いただいている。一週間研究課題が終わった時点で、地域の方の前で発表していただいている。

(委員) 組織図の中で会長以下7名の氏名が載っている。センター長ができると思うが、事務局長が兼務するのか。組織はどのようなのか。

(申請者) まだわからない段階ではある。事務局機能の強化充実という目的であるため、常設になると思う。

(委員) 屋根のないキャンパスはいい言葉であると思った。役員に女性がいないがどのようにお考えか。

(申請者) 部会に女性は1名入っていただいている。今後は部長職をお願いしないといけないと考えている。

審査

(委員長) 集計結果を踏まえ、指定管理者候補として田根地区・地域づくり協議会が適当かどうか意見をお願いします。また、評価できる点、改善できる点があれば意見をお願いします。

(委員) 目標設定が明確で、事業も独自性があつてうまくやっていただけたと思う。

(委員) まちづくり活動のスタートは田根が一番古い。ノウハウをもってやっていただけると期待する。交付金が多いのが少し気になる。

(委員) まちづくりセンターを拠点にして活動いただきたい。

(委員) 地域ニーズに応じた強化を進めていただきたいと思う。

(委員長) びわと対比するわけではないが地域中心に比べ、広域的に活動されている印象であつた。指定管理者として適当であると考え

る。
それでは、田根地区・地域づくり協議会を指定管理者候補として決定してよろしいか。

(異議なし)

結論、田根地区・地域づくり協議会を指定管理者候補とする。